

みどりアップQ

緑 × まち × 未来を考えよう

里山ガーデンで 計画をPRしました！

私たち広報・見える化部会の市民委員が、4月21日（土）の午後に、ガーデンネックレス横浜2018の会場の「里山ガーデン」にて、ブース出展しました！

当日はブース内でパネル展示をするほか、来場者にアンケートをとりながら、「森」「農」「街なかの緑」に感じた魅力や、みどりアップ計画に期待することなどを聞き、計画や広報誌「みどりアップQ」をPRしました。

大変暑い中の開催でしたが、市民の方々の身近な緑についてのご意見などをたくさん聞くことができました。

広報・見える化部会でも、この「みどりアップQ」などを通じて沢山の方に計画について知ってもらえるよう工夫していきたいと感じました。



当日の様子

アンケートでのご意見

- 8割の方が「市内のみどりに触れたり感じたりする機会がある」と回答
- 自由意見
 - ・「今ある横浜の緑を残して欲しい」
 - ・「みどり税は知らなかったが、緑は好きなので活用して欲しい」
 - ・「身近な里山の自然をそのまま楽しめたり、再生するようにしてほしい」

森とわたしをつなぐ場所 ウェルカムセンターにいこう 第5回

連載最終回

舞岡ふるさと村虹の家（横浜市戸塚区舞岡町 2832）



舞岡ふるさとの森散策路

舞岡ふるさと村は 102.7ha の区域に約 35ha の農地、約 25ha の樹林地が残る農業地帯です。小川アメニティーの川沿いを歩けば、のどかな田園景観を楽しむことができます。駅から虹の家に向かう道路の右側の樹林地のある区域は、舞岡ふるさとの森として散策路が整備され、市民の身近なハイキングコースとなっています。

虹の家では舞岡の農業や歴史、里山の自然や文化などのパネル展示や、市民の森の散策情報を紹介しているほか、昆虫や植物の自然観察会などの様々な教室も開催しています。

ウェルカムセンター及び周辺の森を紹介するガイドブックを作成していますので、散策の際にはぜひお役立てください。

ウェルカムセンター 横浜



虹の家



ガイドブック

舞岡ふるさと村虹の家

開館時間：9:00～17:00（入館は16:30まで）

休館日：火曜日（火曜が祝日の時は翌日）

問合せ：TEL045-826-0700 FAX045-826-0749

アクセス：横浜市営地下鉄ブルーライン「舞岡駅」徒歩5分

横浜みどりアップ計画とは？

緑豊かな環境を将来に残すために、市民の皆さんと一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています（個人市民税均等割に年間900円、法人市民税に均等割の9%相当額を上乗せ）。計画書は、環境創造局ホームページ、区役所広報相談係や市庁舎1階市民情報センター、環境創造局政策課で閲覧できます。

環境創造局ホームページ
http://www.city.yokohama.lg.jp/
kankyo/midoriup/



横浜みどりアップ計画 市民推進会議とは？

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

市民推進会議

みどりアップQとは？

みどりアップQの「Q」は「みどりアップをもっと知る、なぜなに？（クエスチョン）」と、「緑のある暮らしの質（クオリティー）を考える」。市民目線でみどりアップ計画を探っていく市民推進会議のレポートです。



Q 自然いっぱいニコニコ池、 子どもたちの挑戦とは？

荒廃した池を子どもたちが主体となり再生させる「池プロジェクト」。学校のシンボルとしてどうよみがえらせていくのでしょうか。

池の整備は？ 管理は？ 費用は？

子どもたちが思いを自発的にかたちにします。

学校・地域・企業・行政と顔がみえる関係の中で、

池を通じて子どもたちは成長しています。

30年前のビオトープを学校のシンボルに！

泉区の和泉小学校には子どもたちが集まる池があります。この池は、昨年まで雑草が生い茂るなど荒廃した場所となっていました。ここに命を吹き込み「自然いっぱいニコニコ池」にする！現在の4年生が中心となり池の再生への挑戦が始まっています。子どもたちの想いとエネルギーが詰まった壮大な「池プロジェクト」をレポートします。

取材：相川健志 委員



継続すること、「10年一区切り」^{ひと}

どこのビオトープでも課題となるのは維持管理。整備されてから時間がたち、負の遺産となってしまうこともあるビオトープについて、内田宏副校長^{うちだ ひろし}にお聞きしました。

「10年を一区切りと考え、今回の池プロジェクトで整備したビオトープは10年もつものを作り上げることを目標にしています。数10年後に負の遺産になってしまってもかまわないと思います。負があるから、どうかしようというプラスのエネルギーが湧いてきます。ビオトープ管理をやらなきゃいけないと決まりごとにしてはダメ。10年経てば児童も先生も入れ変わります。人と想いが揃ったときにまた負の遺産がプラスの財産になるのです。そして立ち上げるパワーこそが更なる財産となります」

継続することのみにとられず、プロジェクトを立ち上げた熱意と、その言葉に感銘を受け、こういった活動のお手伝いをみどりアップ計画の事業で行えていることを嬉しく思いました。

これからの活動

「池プロジェクト」を進めることにより、自分で考え、それを言葉にして大人に伝えるなど子どもたちの成長につながったと先生方は言います。今度はビオトープを学習のフィールドとして、さまざまな授業で活用することも検討されているそうです。

一方で、今後どのように維持管理を継続していくかという課題は残ります。継続していくための仕組み作りが必要だと思えます。このビオトープが授業で活用され、学校のシンボルとして学校、地域、企業、行政など多種多様な人がかかわり、集まる場になっていくことを期待します。



ビオトープの生き物を見る様子

在来種いるかな？



アメリカザリガニは ためたよー！

学校の池に入れる生き物を、和泉川で探しました ※和泉川内での活動には土木事務所の確認が必要です

Q. ビオトープとは？

A. 生きもの(ビオ)と場所(トープ)から成る言葉(ドイツ語)で、生きものたちが生息・生育する空間を指しています。

“子どもたちの想い”と企業と地域と行政と

「ビオトープへと再生するためにはお金が必要。役所の人に相談してみよう！」

子どもたちがこんな池にしたいという想いを横浜市環境創造局みどりアップ推進課の職員にプレゼンした結果、みどりアップ計画事業の趣旨に合った内容として、整備費の支援がされることになりました。子どもたちはお金が必要なときはどうするのか？ということを実践で経験し、自信と自発性を身につけました。また、池の整備を行う施工業者の方と給食を一緒に食べたり、地域の方からカブトムシの幼虫など生き物がたくさん入っている腐葉土をおすそ分けしてもらったりと、池に関わる施工業者の方や地域の方とも顔の見える関係をつくっていききました。

現在の4年生を担当する関誠明先生は、「子どもたちがいろいろな人たちに関わることによって世界が広がって、自分たちの考えたことが形になって、うれしい！もっと頑張る！とつながっています。発表もどんどん上手になっていくんです」と言います。この池プロジェクトを学校だけのこととはせず、地域や企業、行政などを巻き込んでいく先生方の学びの仕掛けづくりは、子どもたちの成長につながっています。

取材メモ 市民推進会議委員が気付いたこと

- 子どもたちの自発性を生かすアドバイザーの授業の魅力
- 学校と地域などとの連携により子どもたちの想いをかたちに
- 失敗を恐れずプロジェクトを立ち上げた学校の熱意を実感。今後は維持管理が課題

池プロジェクト始めました！

泉区の横浜市立和泉小学校にある、「自然いっぱいニコニコ池」と名付けられた池。この場所には、30年ほど前に整備された池がありましたが、近年手入れがされず、水が枯れ、雑草が生い茂っていました。そこで、「せっかくなのでこの池を活用できないか」と平井克明校長^{ひらい かつあき}が、先生や子どもたちに呼びかけました。そして、昨年6月から「池プロジェクト」と題して、自然あふれるビオトープへの再生を目指した、子どもたちを中心とした和泉小学校の挑戦が始まりました。

昨年度は、現在の4年生が中心となり、どんな池にしたいかを考えたり、荒れていた池を大掃除したりしました。そして遂に今年の4月には第1期整備が完了し、「自然いっぱいニコニコ池」ができあがりしました。今年度はどんな生き物や植物を入れるのか、学び、考えていきます。



施工業者の方からビー玉をプレゼントしていただき、みんなで池の周りに飾り付けました

池の整備に合わせて花壇をつくり、横浜のバラ「はまみらい」を育てています ※横浜の未来のさらなる発展を願って「はまみらい」の名前が付けられています



アドバイザーの授業の魅力

昨年度から、子どもたちはビオトープアドバイザーの島村雅英^{しまむら まさひで}さんの授業を受け、池で育つ生き物や植物について学んでいます。

今回取材した授業では、4年生が花・木・水草の3つのグループに分かれ、これまでの授業で島村さんからもらったアドバイスや自分たちで調べたことをもとに、4月に完成したビオトープをこれからどんなビオトープにしたいか、どんな生き物・植物を入れるかということを、子どもたちから島村さんへ提案しました。

島村さんは「ビオトープは生き物の棲む生命の場所である」ということを子どもたちと確認します。子どもたちの提案に対しては、「どうしたらそうなるのかな？」などと自分自身で考えさせ、自分たちで調べたり、聞いたりするよう、上手にアドバイスをされていました。子どもたちの関心を引き付け、みずみずしい感性を引き出す魅力的な授業でした。



授業をする島村さん



プレゼンする4年生

みどりアップ計画

ビオトープの整備費、アドバイザー派遣 ※私立の学校の場合は、横浜みどり税を充当しています